

2026年度の大学院授業内容（概略）

●博士前期課程

授業名称・ 時限	担当者	授業内容
演習 I	齊藤哲也	展覧会カタログは、展覧会に展示された作品の「図録」であるにとどまらず、その時点での最新の研究動向を反映した「論文集」になっているケースが多い。本授業では比較的近年に出版されたシュルレアリスム関連の展覧会カタログを読むことで、シュルレアリスム研究の「いま」にふれることを目指す。
演習 II	杉本圭子	春学期はゾラの短編『ナンタス』、秋学期はバルザックの短編『金色の眼の娘』を読む。解説を加えながら原文を読み、作家の文体の特徴をとらえ、同時代のテキストとも読み合わせながら作品をより深く理解することを目指す。
演習 III	畠山達	ボードレールの詩集『悪の華』をフランス語で、一字一句、丁寧に読む。指定された範囲について訳とレジюмеを毎回準備し、それをもとにプレゼンをしてもらう。
特殊研究 I	瀧本みわ	2025-26年にパリの Jacquemart-André 美術館で開催されたジョルジュ・ドゥ・ラ・トゥール展の展覧会カタログおよび特集雑誌を教材として、フランス語文献を精読する。論文の読解を通して、ラ・トゥールの絵画における光と影の表現、構図、人物造形などの造形的特質と様式的特徴を考察するとともに、17世紀フランスの歴史や社会的背景を踏まえ、ドゥ・ラ・トゥールの作品を多角的に読み解く力を養う。
特殊研究 III	白川理恵	春学期は Jean-Jacques Rousseau, "De l'Éducation" を読み、青年期、自己愛、感受性、憐みの情、自己愛、利己心といった主題について考察する。秋学期は "Essai sur l'origine des langues" を読み、言語および音楽美学に関する思想を扱う。
特殊研究 IV (秋学期 のみ)	梅澤礼	ユゴーの『レ・ミゼラブル』を日本語で全巻再読し、各自、気になった複数箇所について原文など調べてきてもらい、それについてディスカッションを行う。
特殊研究 V	ジャック・レ ヴィ	物語のフィクション性や文体の問題を対象にしたいくつかの論文を丁寧に読み、同時に、近年、言語学、文学理論や文芸批評においてどのような傾向がみられるのか、幅広く紹介していく。
留学準備 演習 (春学期 のみ)	マリ・ノエル・ ボーヴィウ	フランスの大学で使われている小論文系練習問題・試験問題の書き方に触れながら、さまざまなフランス語の教材について話す/書く力を身につける。